

ご家庭に飲まずに 余っているお薬はありませんか？



文京区薬剤師会では、「飲み忘れてしまった」「余ってしまっている」「何の薬か分からない」など、ご家庭で余っている薬を回収する取り組みを行っています。薬の調整にご協力いただける患者さまには、「ぶんきょうお薬バッグ」を配付しています。



飲み忘れた薬がある場合、
何の薬か分からない場合…

ぶんきょうお薬バッグに
入れて

当薬局に
ご持参ください

ぶんきょうお薬バッグの使い方

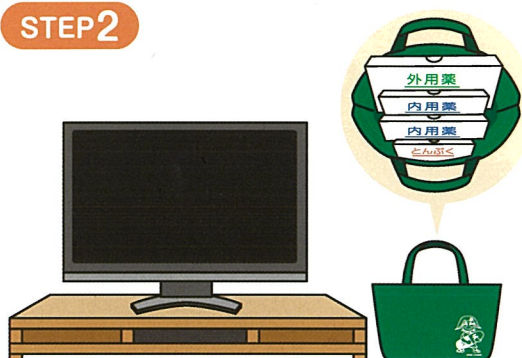
STEP 1



病院で処方された薬を「ぶんきょうお薬バッグ」に入れてお渡しします。

「おくすり手帳」「薬の説明書」は、バッグの内側のポケットに入れて薬と一緒に保管し、薬の種類や服用方法が分からなくなった時に、確認します。

STEP 2



家に持ち帰ってからも薬は「ぶんきょうお薬バッグ」に入れたまま保管します。

薬を色々な場所に置くと飲み残しの原因となりますので、バッグにまとめておくことが大切です。

薬は、服用するときに必要な分を薬袋から取り出すよう習慣づけましょう。

STEP 3



次回来局時には、バッグの中に残ってしまった薬はもちろん、ご家庭に余っている薬は、すべて薬局にご持参ください。

薬剤師が残った薬を確認し、医師に連絡して処方日数などを変更することができます。

処方されたご本人の薬なら余った薬を再利用できることもあり、ご負担いただくお薬代が少なくなる可能性があります。

災害時、毎日飲んでいる薬がないと命に関わる場合があります。

地震など万一の場合には、「ぶんきょうお薬バッグ」を必ず持ち出すようにしましょう。

